記念講演Ⅱ

日立の構造改革と社会イノベーション事業

中　西　宏　明
株式会社日立製作所
取締役会長　代表執行役

目　　次

1．不確実性の時代と社会の変化
2．日立の社会イノベーション事業
3．日立の変革と資本市場
4．イノベーション
5．終わりに―不確実な世界と企業経営

1．不確実性の時代と社会の変化

私が社長に就任したのは、リーマンショックにより日立が国内製造業としては過去最大の赤字を計上した時期であった。その頃から日立は改革を唱えてきたが、それまでとは全く異なる次元の改革をやらなければならなかった。世の中が今後どうなっていくのかを深く考え、「社会イノベーション事業」がどのような考え方をベースにして何を行うべきかを検討してきた。そして決定した方向に向かうためにいろいろな変革が必要だったが、その変革の核がイノベーションであった。本日は日立がたどった変革の経緯をお話しする。

本日の証券アナリスト大会のテーマは「グローバリズムの危機と企業・アナリストの対応」であるが、いろいろな人が多様なコミュニケーション手段や交通手段を用いて活動し、いろいろな価値観がぶつかり合うことで社会現象が多様化している。最後には「まさかの世界」が頻繁に出てくる世の中になるであろうが、一番はデジタル化により様々なことが数量化されて世界の行動を変えるところまで行きつくということである。このデジタル化の流れが「第４次産業革命」と呼ばれているのだが、私たちからすると商売の組み立て方がここでがらりと変化してきた。日立は様々なモノを作りそれを売ることを仕事にしてきたが、「売る」ということ自体が変化してきている。私はコンピュータの設計部門の出身であるが、若い頃はお客さまに対してスペックやOSのパフォーマンスの良し悪しをとうとうと説明したものだ。だが、

©日本証券アナリスト協会　2017